

令和4年度第1回まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議の主な意見

日 時： 令和4年8月23日（火）10：00～12：00

場 所： 安芸太田町東館2階大集会室

出席者： 16人中14人

（1）安芸太田町人口ビジョンについて

◆主な意見

（委員）説明があった令和2年と令和3年の差では、190人と説明されたが、140人ではないか。

（町）資料2の人口の推移は、広島県の人口移動統計調査を基にしている。国勢調査が行われた年は人口の数値の調整が行われており、単純に人口増減の差引きで積み上げている数値ではない。

（2）安芸太田町まち・ひと・しごと創生総合戦略（安芸太田町長期総合計画）の施策評価について

◆主な意見

【施策01 安芸太田町に住みたくなる人を増やします。】

（委員）

「空き家活用等支援事業」と「UI ターン世帯定住応援支援」を廃止して新たに「移住定住促進応援補助金」を作られたとのことだが、それと「子育て世帯定住応援補助金」が合わせて16件の活用しか無かったのか、17人の定住に繋がったということは、子育て関係の補助金は一件しか無かったと捉えるのか。

この施策の指標に人口の社会増減数としているが、定住者だけの数値を入れて評価をした方が良いのではないか。

（町）

・「移住定住促進応援補助金」の活用が8件で新規移住者は11人、「子育て世帯定住応援補助金」の活用が8件で新規移住者が6人となっている。

転入者の中には、新規の定住者の方と転勤等により一定期間で転出される方もあり、新規定住者のみを確実にカウントすることは難しい。このため指標としては県の人口移動統計数値を採用しているが、今後、指標を工夫したい。

・移住者が伸び悩んでいる状況だが、これにはコロナ感染症に影響も少なくないと考えている。実際に空き家物件を現地に内覧に来られる方が減っている。

・令和4年度は、物件の掘起しとともに、町が空き家を直接借上げ、リフォームするといった新たな事業も計画している。引き続き、定住対策には傾注する。

【施策04 夢と地域愛を育む学校教育を推進します。】

（委員）

成果指標の評価が「－」になっているが、何らかの評価を示すべきと思うがどうか。何か工夫して、確かに小学校・中学校それぞれ全体としてどれぐらい、小学生・

中学生の半分以上が超えているというような整理ができるのではないかと。

(町)

目標値が各教科の+3ポイント以上になっており、全体での評価区分としての整理が難しいため保留にしている。今後工夫して評価を示したい。

【施策 06 地域共生社会の実現を目指します。】

(委員)

戸河内支援センターについて、以前は地域おこし協力隊がおられ、数値が上がっていたと思うが今は行事やイベントがない。戸河内支援センターの利用促進策を工夫してほしい。戸河内と加計の拠点ごとの評価も必要ではないかと。

(委員)

戸河内支援センターについて、今後、多文化共生の取組みを進めるとのことだが、具体的な計画があれば説明してほしい。

(町)

加計拠点は約 38,000 人の利用者がある。戸河内拠点は、図書館利用や体操教室等の利用が中心となっている。利用促進の工夫をしていく。

戸河内支援センターでの具体の取組は、社協等と現在計画途中である。

【施策 15 衛生的な排水処理を進めます。】

(委員)

水洗化率の評価が「a」となっているが、高額な経費を掛けて水洗化、集合処理区を作っているが、まだその地域に未加入世帯がある状況である。目標値を少し上げて、もう少し努力してほしい。「a」という評価で満足してはいけない。

(委員)

筒賀は 90%以上になっているはずだが、旧町の水洗化率はどうなっているか。

(町)

- ・目標値は計画策定時点のものなので、現状値を点検しながら目標値の見直しも担当課と相談する。
- ・担当部署に確認し、お示しする。

【水洗化率】 加 計： 76.6% 筒 賀： 99.5% 戸河内： 88.8%

【施策 24】農商工連携を進めます。

(委員)

産直市と道の駅来夢とごうちの売り上げが成果指標だが、生産者が高齢化して、生産物が増えない状況である。この道の駅についても地元の生産者でなく、外から仕入れた物がこの数値に入っている事を認識しておいてほしい。

(委員)

現在、道の駅再整備計画が出ているが、再整備すると交流人口、産業についても大きく変化する可能性がある。完成年次が分からないが、この計画の中でいくらか含みを持たせる必要があるのではと思う。

(町)

今後、産直市の売上の内訳（地元生産物、町外生産物）も表示できるように工夫する。

(町)

・令和2年度からの総合戦略を策定する時点では、「道の駅の再整備」という文言だけで、具体的な進め方等は掲載できていない。令和2年9月から道の駅の再整備について具体的な計画作りに取り組んでおり、今まさに策定委員会で整備スケジュールを議論している。民間活力導入（PPP、PFI）も検討しており、新たな道の駅の完成時期はまだ定まっていない。引き続き、具体的な計画策定作業をすすめる。

・総合戦略の位置づけとしては、施策24「農商工連携を進めます」に含まれており、施策シートの中には、令和3年度の取組状況と今後の施策展開方針を記載している。道の駅再整備については、政策分野の「産業・観光・しごと」の全ての分野に関連する重要な施策として考えている。

【施策32】住民がより関わる地域づくりを進めます。

(委員)

地域懇談会を「はしもトーク」に名前を変えて懇談会をされるということだが、指標をクリアすることは当然で、できるだけ参加者数を増やす努力が必要ではないか。

(町)

コロナ感染症の影響で、参加者が伸び悩んだところもある。参加しやすい懇談会になるようさらに工夫する。

【その他】目標値の評価（達成状況）について

(町)

・各施策の目標値については、計画策定時に設定したものであるが、目標年次の令和6年度数値に向けて現時点の到達度を評価することが相応しいものと、各年度で維持されるべき数値として評価することが相応しいものがある。達成度の表現については引き続き工夫する。

(3) 地方創生推進交付金事業の実施状況及び効果検証について

◆主な意見

(委員)

町の支援をいただいて黎明館を整備していただいた。生徒はいろいろな地域から来ているので、安芸太田町を第二の「ふるさと」というふうに認識させたい。そのためには地域の方々と温かい交流が必要で、本校の生徒は地域の方々が温かく迎えていただいているのだと感謝している。

ローカルビジネスコーディネータプログラムでは、地域と加計高校を結ぶ役割を担ってもらっている。地域と地域の資源と本校生徒のアイデアを結び付けた商品開発、観光などいろんな分野で話をして、計画を立て、それを実践する。この経験が、進学にも大きくつながっており、この春は国公立大学に7名が入学した。中山間地域の小規模高校でこの人数は異例であり、広島県でも類を見ない高校になっている。

安芸太田町で学んだ子どもたちがやがて安芸太田町を支える人材になるだろうと思いますので引きつづきご支援よろしく申し上げます。

(委員)

マイナンバーカードと町が進めるDX推進計画とどのような繋がりがあるのか、マイナンバーカードとどのように連動しているのかお聞かせください。

(町)

マイナンバーカードを基盤としたDX推進プロジェクトは、この令和4年5月に策定したDX推進計画において、マイナンバーカードを活用してスマホ等で、子育て世帯の補助金申請、福祉関係の申請事項など家に居ながら役場に訪れずとも申請ができるよう、デジタルを活用した住民サービスの向上を目指すこととしており、国の取組みとあわせて、本町としても活用することを検討していく考えである。

(町)

マイナンバーカードの割合が広がれば、デジタルを介して行政サービスを皆さんに広く提供させていただけるので、マイナンバーの普及が大きく係わっていると考えている。

(委員)

今後、マイナンバーや町の取組みが、町民にもよくわかるように情報発信すべきである。

4 その他

(委員)

将来の町づくりということであれば、こういった会議体にも若い人の意見が取り込めるよう工夫してほしい。

(委員)

町の総生産額を上げていくためには、製造工場誘致や物流センターの誘致等も考えられるが、安芸太田町は観光資源をさらに活用することが有効と考える。ポストコロナで、観光消費の拡大は期待できる。観光消費により、町域全体の収益が増大し、経済が豊かになり、人口増加に繋がっていくような施策が必要と考える。